





安全データシート (SDS)
(JIS Z 7253_2019準拠)

1. 化学品等及び会社情報					
化学品等の名称	洋白 (C7451,C7521,C7541,C7701)				
会社名	清峰金属工業株式会社				
住所	〒305-0041 茨城県つくば市上広岡633番地				
電話番号	029-821-2510				
ファックス番号	029-823-3664				
電子メールアドレス	ozaki@kiyomine.co.jp				
緊急連絡電話番号	029-821-2511				
2. 危険有害性の要約					
GHS分類					
	Cu	Pb	Mn	Ni	
分類実施年度	平成25年度 (2013年度)	平成18年度 (2006年度)	平成18年度 (2006年度)	平成26年度 (2014年度)	
使用マニュアル	政府向けGHS分類ガイダンス (H25.7版)	GHS分類マニュアル (H18.2.10版)	GHS分類マニュアル (H18.2.10版)	政府向けGHS分類ガイダンス (平成25年度改訂版)	
物理化学的危険性	爆発物	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	引火性ガス	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	エアゾール	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	酸化性ガス	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	高压ガス	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	引火性液体	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	可燃性固体	分類できない	区分外	分類できない	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	自然発火性固体	分類できない	区分外	分類できない	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない	区分外	分類できない	分類できない
	水反応可燃性化学品	区分外	区分外	分類できない	区分外
	酸化性液体	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
	鈍化性爆発物		-	-	-
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない	分類できない	区分外	区分外
	急性毒性 (経皮)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
	急性毒性 (吸入：気体)	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類対象外
	急性毒性 (吸入：蒸気)	分類対象外	分類できない	分類できない	分類できない
	急性毒性 (吸入：粉じん、ミスト)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない	分類できない	区分3	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない	分類できない	区分2B	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない	分類できない	分類できない	区分1
	皮膚感作性	区分1A	分類できない	分類できない	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない	区分2	分類できない	分類できない
	発がん性	分類できない	区分2	区分外	区分2
	生殖毒性	分類できない	区分1A	区分1B	分類できない
	特定標的臓器 (単回ばく露)	区分1 (消化器) 区分3 (気道刺激性)	分類できない	区分1 (呼吸器)	区分1 (呼吸器、腎臓)
	特定標的臓器 (反復ばく露)	分類できない	区分1 (造血系、腎臓、中枢神経系、末梢神経系、心血管系、免疫系)	区分1 (神経系、呼吸器)	区分1 (呼吸器)
誤えん有害性	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	分類できない	分類できない	区分4	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない	-	-	分類できない

GHSラベル要素		Cu	Pb	Mn	Ni
絵表示 (ピクトグラム)					
注意喚起語		危険	危険	危険	危険
危険有害性情報		<p>H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ</p> <p>H370: 臓器の障害 (消化器)</p> <p>H335: 呼吸器への刺激のおそれ (気道刺激性)</p>	<p>H341: 遺伝性疾患のおそれの疑い</p> <p>H351: 発がんのおそれの疑い</p> <p>H360: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ</p> <p>H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害 (造血系, 腎臓, 中枢神経系, 末梢神経系, 心血管系, 免疫系)</p>	<p>H320: 眼刺激</p> <p>H360: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ</p> <p>H370: 臓器の障害 (呼吸器)</p> <p>H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害 (呼吸器, 神経系)</p> <p>H413: 長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ</p>	<p>H334: 吸入するとアレルギー、ぜん (喘) 息又は呼吸困難を起こすおそれ</p> <p>H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ</p> <p>H351: 発がんのおそれの疑い</p> <p>H370: 臓器の障害 (呼吸器, 腎臓)</p> <p>H372: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害 (呼吸器)</p>
注意書き	安全対策	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。	P201: 使用前に取扱説明書を入力すること。	P201: 使用前に取扱説明書を入力すること。	P201: 使用前に取扱説明書を入力すること。
		P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。	P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。	P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。	P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
		P264: 取扱後はよく手を洗うこと。	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。	P260: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
		P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。	P264: 取扱後はよく手を洗うこと。	P264: 取扱後はよく手を洗うこと。	P261: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
		P271: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。	P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。	P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。	P264: 取扱後はよく手を洗うこと。
		P272: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。	P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。	P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。	P270: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
		P280: 製品の端緋は鋭利になっており、切創する危険性があるので、適切な保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。			P272: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
					P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置		P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。	P308+P313: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用している場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。	P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
		P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。	P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。	P308+P311: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。	P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
		P308+P311: 暴露又は暴露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。		P308+P313: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。	P308+P311: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
		P312: 気分が悪いときは医師に連絡すること。		P314: 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。	P308+P313: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
					P284: 【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

		P321：特別な処置が必要である。	P321：特別な処置が必要である。	P314：気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。
		P333+P313：皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。	P337+P313：眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。	P321：特別な処置が必要である。
		P362+P364：汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。		P333+P313：皮膚刺激又は発疹（疹）が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
				P342+P311：呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
				P362+P364：汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
	保管	P403+P233：換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。	P405：施錠して保管すること。	P405：施錠して保管すること。
		P405：施錠して保管すること。		
	廃棄	P501：内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。	P501：内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。	P501：内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成、成分情報					
単一製品・混合物の区別	単一製品	単一製品	単一製品	単一製品	
化学名又は一般名	銅	鉛	マンガン	ニッケル	
別名	－	－	－	－	
濃度又は濃度範囲	C7451	63.0～67.0	0.03以下	0～0.50	8.5～11.0
	C7521	62.0～66.0	0.03以下	0～0.50	16.5～19.5
	C7541	60.0～64.0	0.03以下	0～0.50	12.5～15.5
	C7701	54.0～58.0	0.03以下	0～0.50	16.5～19.5
分子式(分子量)	Cu (63.55)	Pb (207.2)	Mn (54.938)	Ni(58.69)	
化学特性(示性式又は構造式)	Cu	Pb	Mn	Ni	
CAS番号	7440-50-8	7439-92-1	7439-96-5	7440-02-0	
官報公示整理番号(化審法)	対象外	対象外	対象外	対象外	
官報公示整理番号(安衛法)	対象外	対象外	対象外	対象外	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし	
表示通知義務					
安衛法施行令別表第9の番号	379	411	550	418	
	ラベル裾切値(重量%)	≧1	≧0.1	≧0.3	≧1
	SDS裾切値(重量%)	≧0.1	≧0.1	≧0.1	≧0.1
化管法の号番号	－	304	412	308	
	ラベル表示(重量%)	－	≧1	≧1	

4. 応急措置				
	Cu	Pb	Mn	Ni
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。	新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の手当、診断を受けること。	呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに洗浄すること。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯をすること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。	皮膚を速やかに洗浄すること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 脱いだ衣類を再使用する前に洗濯し汚染除去すること。	皮膚を速やかに洗浄すること。 大量の水と石けんで洗い流す。 医師の手当、診断を受けること。	多量の水と石鹸で洗うこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯をすること。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
目に入った場合	水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断、手当てを受けること。	水で数分間、注意深く洗うこと。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の手当、診断を受けること。	水で数分間注意深く洗うこと。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合	速やかに口をすすぎ、直ちに医師に連絡すること。	速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。	口をすすぐこと。 医師の手当、診断を受けること。	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	眼・皮膚の発赤、眼の痛み、咳、頭痛、息切れ、咽頭痛、腹痛、吐き気、嘔吐。 遅発性症状：金属熱。	胃痙攣、し眠、頭痛、吐き気、嘔吐、脱力感、喘鳴、蒼白、ヘモグロビン尿症、虚脱。	吸入：咳、息切れ、気管支炎、肺炎。症状は、遅れて現れることがある。 皮膚：刺激、発赤。 眼：刺激。 経口摂取：腹痛、吐き気。	データなし
最も重要な兆候及び症状				データなし
応急措置をする者の保護	救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。		救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。	データなし
医師に対する特別注意事項	安静と医学的経過観察が不可欠。	医学的な経過観察が必要である。	安静と症状の医学的な経過観察が必要。	データなし
5. 火災時の措置				
	Cu	Pb	Mn	Ni
消火剤	特殊粉末消火剤、乾燥砂。	この製品自体は、燃焼しない。	特殊粉末消火剤、乾燥砂、黒鉛粉。	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状注水、泡消火剤、二酸化炭素		二酸化炭素、散水、泡消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガス及びヒュームを発生するおそれがある。	火災によって刺激性、又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のヒュームを発生するおそれがある。 水、水蒸気、二酸化炭素と接触すると激しく反応する。 粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。		不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。 金属ニッケルは、通常酸化皮膜によって参加に対して安定化しているが、酸化皮膜のない新鮮な金属表面は、空気により急速に酸化される。したがって、粉末の新鮮な金属ニッケルは、空気中で発火するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 金属火災では、密閉法、窒息法消火が望ましい。	危険でなければ火災区域から容器を移動する。	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 密閉法、窒息法消火が望ましい。	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。	消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め完全な防護服（耐熱性）を着用する。	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣（耐熱性）を着用すること。	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置					
		Cu	Pb	Mn	Ni
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置		関係者以外の立入りを禁止する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガス、ヒュームの吸入を避ける。	関係者以外の立入りを禁止する。作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や粉じんやヒュームの吸入を避ける。関係者以外の立入りを禁止する。作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。風上に留まる。	全ての着火源を取り除く。直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。密閉された場所に立ち入る前に換気する。
環境に対する注意事項		河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。	河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。	環境中に放出してはならない。河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。	環境中に放出してはならない。
回収、中和		漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。	漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。	漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、密閉可能な容器に回収し、後で廃棄処理する。	漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・機材		危険でなければ漏れを止める。	危険でなければ漏れを止める。	危険でなければ漏れを止める。	水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策		すべての発火源や可燃性物質を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。	床面に残るとする危険性があるため、こまめに処理する。	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。	プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意					
		Cu	Pb	Mn	Ni
取扱い	技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	安全取扱い注意事項	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。静電気対策を行い、作業衣、安全靴は導電性のものを用いる。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。接触、吸入又は飲み込まないこと。粉じん、ヒュームを吸入しない。取扱い後はよく手を洗うこと。	使用前に取扱説明書入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。接触、吸入又は飲み込んでではない。粉じんを吸入しないこと。	使用前に使用説明書入手すること。すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。接触、吸入又は飲み込まないこと。環境への放出を避けること。	データなし
	接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。	「10. 安定性及び反応性」を参照。	「10. 安定性及び反応性」を参照。	「10. 安定性及び反応性」を参照。
	衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。	
保管	安全な保管条件	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。容器を密閉して換気の良い涼しい所で保管すること。熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。混触危険物質から離して保管する。施錠して保管すること。	酸化剤から離して保管する。施錠して貯蔵すること。	保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。混触危険物質から離して保管すること。容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。施錠して保管すること。	施錠して保管すること。

	安全な容器包装材料	情報なし	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。	密閉式の破損しないものに入れる。ただし、粉末の場合は国連輸送法規で規定されている容器を使用する。	データなし	
8. ばく露防止及び保護措置						
		Cu	Pb	Mn	Ni	
管理濃度		未設定	0.05 mg/m ³ (鉛及びその化合物、Pbとして)	0.2mg/m ³ (Mnとして)	未設定	
許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	日本産業衛生学会許容濃度勧告	未設定	0.1 mg/m ³ 鉛及び鉛化合物、アルキル鉛を除く、鉛として(2005年版)	0.3mg/m ³ (吸入性粉じん・Mnとして) (2005年版)	1mg/m ³ (2009年版)	
	ACGIH	TWA 0.2mg/m ³ (ヒューム), TWA 1mg/m ³ (粉じん、ミスト)	TLV-TWA 0.05 mg/m ³ A3;BEI鉛及びその無機化合物、Pbとして(2005年版)	TLV-TWA 0.2mg/m ³ (Mnとして)(2005年版)	TWA 1.5 mg/m ³ (インハラブル粒子) (2009年版)	
設備対策		製造業者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。	防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。	
		静電気放電に対する予防措置を講ずること。	空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。	粉じんが発生する場合は、局所排気装置を設置する。	ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。	
		気中濃度を推奨された管理濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。		高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、換気装置を設置する。		
		この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。		この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。		
保護具	呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。	適切な呼吸器保護具を着用すること。	適切な呼吸器保護具を着用すること。	適切な呼吸器保護具を着用すること。	
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。	適切な手袋を着用すること。	適切な保護手袋を着用すること。	適切な保護手袋を着用すること。	
	眼の保護具	保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)	眼、顔面用の保護具を着用すること。	適切な眼の保護具を着用すること。	保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。	適切な保護衣を着用すること。	必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用すること。	適切な保護衣を着用すること。		
衛生対策			取扱い後はよく手を洗うこと。	取扱い後はよく手を洗うこと。	取扱い後はよく手を洗うこと。	

9. 物理的及び化学的性質				
	Cu	Pb	Mn	Ni
物理的状態、形状、色など	粉末 赤色	様々な形状の帯青白色あるいは銀灰色の固体 (ICSC (J)(1997))	白色-灰色 (ICSC (2003))	固体
臭い	情報なし	データなし	情報なし	データなし
臭いのしきい (閾) 値	情報なし	データなし	データなし	
p H	情報なし	データなし	データなし	データなし
融点・凝固点	1083°C (ICSC(1993))	327.4°C (融点) (Merck (13th, 2001))	1244°C (融点) (ICSC (2003))	1453°C: (Merck (14th, 2006))
沸点、初留点及び沸騰範囲	2595°C (ICSC(1993))	1740°C (沸点) (ICSC (J)(1997))	1962°C (沸点) (ICSC (2003))	2730°C (ICSC (2004))
可燃性				
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界				
引火点	情報なし	該当しない	データなし	データなし
自然発火温度・自然発火点	情報なし	データなし	データなし	データなし
分解温度	情報なし	データなし	データなし	データなし
溶解度	不溶 (水) (ICSC(1993)) 徐々に溶ける (アンモニア水) (HSDB(2013))	冷水にわずかに溶ける (SAX (11th, 2004))	不溶 (水) (ICSC (2003))	4.22E+005mg/L (SRC(access on 1 2009))
蒸発速度 (酢酸ブチル = 1)	情報なし	該当しない	データなし	データなし
燃焼性 (固体、ガス)		該当しない	可燃性 (ICSC (2003))	データなし
燃焼性 (固体、気体)	可燃性 (ICSC(1993))			
燃焼又は爆発範囲				
爆発範囲		該当しない	データなし	データなし
蒸気圧	1mmHg (1628°C) (HSDB(2013))	235Pa (1000°C) (Merck (13th, 2001))	データなし	1mmHg (1,810°C) [換算値 133Pa (1,810°C)] (HSDB(2006))
蒸気密度	情報なし	データなし	データなし	データなし
密度及び又は相対密度	8.94g/cm ³ (HSDB(2013))	データなし	7.47g/cm ³ (比重) (ICSC (2003))	8.908g/cm ³ (Merck(14th,2006))
n-オクタノール・水分係数	情報なし	log Pow = 2.98 (推定値) (SRC (2005))		
オクタノール・水分係数			データなし	-0.57 (EST) (SRC (access on 1 2009))
相対ガス密度				
粉じん爆発下限濃度				データなし
最小発火エネルギー				データなし
体積抵抗率(導電率)				データなし
粘度・動粘性率	情報なし	データなし	データなし	データなし
粒子特性				

10. 安定性及び反応性						
		Cu	Pb	Mn	Ni	
反応性		湿った空気にばく露すると緑色になる。 アセチレン化合物、エチレノキッド類、アジ化物により衝撃に敏感な化合物が形成される。				
安定性		湿った空気にばく露すると緑色になる。 アセチレン化合物、エチレノキッド類、アジ化物により衝撃に敏感な化合物が形成される。	酸素が存在すると、純水、弱有機酸により侵される。	通常取扱条件下では比較的安定。 加熱すると有毒なヒュームが発生する。	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。	
危険有害反応可能性		酸化剤（塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩等）と反応し、爆発の危険をもたらす。	通常条件では危険有害な反応は起こらない。 高温の濃硝酸、沸騰した濃塩酸や濃硫酸と反応する。 常温でフッ素や塩素に侵される。	高温で、多くに非金属類(塩素、フッ素、酸素など)と激しく反応して、火災や爆発の危険をもたらす。 過酸化水素、五フッ化臭素、二酸化窒素、アルミニウム粉じんと激しく反応して、火災や爆発の危険をもたらす。 ホウ素、炭素、シリコン、りん、硫黄、酸化剤と反応する。 硝酸や硝酸アンモニウムと爆発的に反応する。 粉末の場合は、水又は水蒸気と反応して水素を発生する。	金属ニッケルは、通常酸化皮膜によって酸化に対して安定化しているが、酸化皮膜のない新鮮な金属表面は、空気により急速に酸化される。したがって、粉末の新鮮な金属ニッケルは、空気中で発火するおそれがある。	
避けるべき条件		湿度、混触危険物質との接触。	粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。	粉末又は顆粒状で空気と混合すると粉じん爆発可能性がある。 高温加熱、混触危険物質との混合・接触。	データなし	
混触危険物質		アセチレン化合物、エチレノキッド類、アジ化物、酸化剤（塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩等）。	酸化剤。	強酸化剤、強酸、過酸化水素、五フッ化臭素、二酸化窒素、非金属類、アルミニウム粉じんなど。		
危険有害な分解生成物		燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、銅ヒューム。	燃焼の際は、有毒なヒュームやガスを放出することがある。	加熱すると、刺激性・腐食性・毒性のガス・ヒュームが生成する。	データなし	
11. 有害性情報						
		Cu	Pb	Mn	Ni	
急性毒性	経口	データ不足のため分類できない。	情報なし	ラットを用いた経口投与試験のLD ₅₀ 9000mg/kg(RTECS (2004))に基づき、区分外とした。	ラットLD ₅₀ > 9000 mg/kg (ECETOC TR №33 (1989)) は区分外である。	
	経皮	データ不足のため分類できない。	情報なし	データなし	データなし	
	吸入	ガス	GHSの定義における固体である。		GHSの定義による固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。	GHSの定義における固体である。
		蒸気	GHSの定義における固体である。		データなし	データなし
		粉じん	データ不足のため分類できない。	情報なし	データなし	動物を用いた試験データがないことから分類できないとした。しかしながら、ヒトの症例として90分間に382 mg Ni/m ³ の濃度と見積られる吸入ばく露で13日後に呼吸窮迫症候群により死亡した例が報告されている(ATSDR (2005))。
	ミスト			データなし	GHSの定義における固体である。	

皮膚腐食性／皮膚刺激性	データ不足のため分類できない。ただし、PATTY (6th, 2012) には、「銅に関連した接触皮膚炎の報告はあるが、銅金属もしくは銅化合物工業において引き起こされた少数例である。」との記述がある。	情報なし	4時間適用試験ではないが、ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果の記述「24時間適用でmild (軽度)の刺激性を示した」(RTECS (2004))から、区分3とした。 軽度の皮膚刺激	データなし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	データ不足のため分類できない。	情報なし	ウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述「mild (軽度)の刺激性を示した」(RTECS (2004))から、区分2Bとした。 眼刺激	データなし
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。	情報なし	データなし	ヒトの症例(1例)として、鼻炎が認められ、また、気管への刺激性反応が見られた(NITE初期リスク評価書 ver. 1.0, No. 69 (2008))。また、日本産業衛生学会の許容濃度等の勧告 (2008)で気道感作性物質 (第2群)に、日本職業アレルギー学会 (2004)及びDFG(MAK/BAT No43 (2007))で気道感作性物質に分類されていることから、区分1とした。
皮膚感作性	日本産業衛生学会 (産衛学会勧告 (2012)) では銅およびその化合物を皮膚感作性物質第2群に分類しており、本物質は対象となっている (感作性分類基準 (暫定) の提案理由 (平成22年5月26日)) ことから、区分1Aとした。	情報なし	データなし	ヒトの症例として、湿疹(NITE初期リスク評価書 ver. 1.0, No. 69 (2008); EHC No. 108 (1991))、接触皮膚炎(NITE初期リスク評価書 ver. 1.0, No. 69 (2008); EHC No. 108 (1991); IARC vol. 49 (1990))、パッチテストにおける陽性反応(NITE初期リスク評価書 ver. 1.0, No. 69 (2008); EHC No. 108 (1991))が報告されている。また、日本産業衛生学会の許容濃度等の勧告 (2008)で皮膚感作性物質 (第1群)に、日本職業アレルギー学会(2004)及びDFG(MAK/BAT No43 (2007))で皮膚感作性物質に分類されていることから、区分1とした。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。	鉛関連労働者の末梢血リンパ球における染色体異常に関してはそう反する結果が得られているが、鉛そのものに染色体異常/小核誘発作用があるとの記述があること (IARC MONOGRAPHS SUPPLEMENT 7 (1987)) ,(EHC3(1977)) , (DFGOT, vol.17(2002)) , (ACGIH (7th, 2001)) から、区分2とした。	経世代変異原性試験なし、生殖細胞/体細胞 in vivo 変異原性試験なし、生殖細胞/体細胞 in vivo 遺伝毒性試験なし、in vitro 変異原性試験で複数指標の (強) 陽性結果なし(DFGOT vol 12 (1999)) であることから、分類できないとした。	ラットの吸入ばく露による肺胞マクロファージにおける染色体異常の結果が陽性(NITE初期リスク評価書 ver. 1.0, No. 69 (2008))との結果があるが特殊な試験系である。他にin vivo の試験データがなく分類できないとした。なお、in vitro変異原性試験：ヒトリンパ球を用いた染色体異常試験 (IARC vol. 49, (1990))、ヒトリンパ芽球 T K 6 を用いた突然変異試験 (詳細リスク評価書シリーズ 19 (2006)) は陰性である。

発がん性	米国EPAによりに分類されている (IRIS (2005)) ことに基づき、分類できないとした。分類ガイダンスの変更に従い区分を変更した。	2B (IARC MONOGRAPHS SUPPLEMENT 7 (1987)) (産衛学会勧告 (2004))、A3 (ACGIH (7th, 2001))、EPAでB2に分類されている。 発がんのおそれの疑い (区分2) IARC グループ2B (ヒトに対して発がん性があるかもしれない)	EPA でD (EPA(1996)) に分類されていることから、区分外とした。	既存分類においてIARCが2B (IARC(1990))、NTPがR (NTP (2005))、そしてEUがCarc. cat. 3; R40 (EU(2007)) に区分していることから区分2とした。また、ラットの吸入、皮下、筋肉内、胸腔内、腹腔内投与による発がん性試験においていずれもがんや肉腫の発生が見られている(NITE初期リスク評価書 ver. 1.0, No. 69 (2008); IARC vol. 49 (1990); 詳細リスク評価書シリーズ 19 (2006))。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。	ヒトばく露例で精子形成に影響があるとの記述(EHC3(1977))(DFGOT, vol.17(2002))(PATTY (5th, 2001))(IARC MONOGRAPHS SUPPLEMENT 7 (1987))、EHCの女性職業ばく露例で排卵機能障害がみられたとの記述(EHC3(1977))から区分1Aとした。 新生児の認知機能発達障害との関連(ACGIH (7th, 2001))(DFGOT, vol.17(2002))(PATTY (5th, 2001))(IARC MONOGRAPHS SUPPLEMENT 7 (1987))、 流産増加との関連についての記述(DFGOT, vol.17(2002))(PATTY (5th, 2001))があるが、明確な結論はえられていない。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (区分1A)	マウスの催奇形性試験において、投与方法が腹腔内投与であり、親動物での一般毒性に関する記述もないが、胚致死と奇形胎児 (脳脱出) がみられている(CICAD 12 (1999))ことから、専門家の判断により、区分1Bとした。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ	データ不足で分類できない。なお、ラットの妊娠前7か月間および妊娠期間中の経口投与(飲水)により、着床前死亡がやや増加し、奇形仔がいくらか認められたとの記載 (Teratogenic (12th, 2007))があるが、それ以上の記述はなく詳細は不明である。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	EHC (1998)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2004) に記述されているヒトの知見から、吸入経路での呼吸器 (気道刺激性) が主たる急性毒性症状である。 経口ばく露では多量の銅を含む飲料水等を摂取した場合に、消化器症状 (吐気、嘔吐、腹痛等) がみられ、主に吐気、嘔吐を生じるとの多数の報告があると記述されている。 この他、EHCには吸入ばく露で肝腫大を生じたとの報告があるが、気中濃度が非常に高く、ATSDRには特定の疾患 (Wilson病など) 以外には銅の急性中毒による肝臓の病変は稀であると記載されている。 従って肝臓は標的臓器に含めず、区分1(消化器)、区分3 (気道刺激性) とした。	ヒトでの急性中毒では腎機能障害が認められたとの症例報告がある (DFGOT, vol.17(2002))が、同じ出典に、その後の疫学調査では、腎障害は無かったとの記述がある。	「マンガン粉じん(特にMnO ₂ とMn ₃ O ₄)の急激なばく露は肺の炎症反応生じさせ時間の経過とともに肺機能障害を誘導する。肺への毒性は気管支炎等の感染性を上昇させ、結果としてマンガン肺炎を発症させる」(CICAD 12 (1999))との記載があることから、標的臓器は呼吸器と考えられる。以上より、分類は、区分1(呼吸器)とした。 呼吸器の障害	雄ラットの吸入(単回気管内投与)ばく露試験において、0.5 mg以上の投与量において肺胞上皮細胞の障害を引き起こした(NITE初期リスク評価書 ver. 1.0, No. 69 (2008))。また、ヒトにおいて吸入ばく露によって「肺胞領域での肺胞壁への障害及び水腫、腎臓における顕著な尿細管壊死」(ATSDR (2005))を引き起こした記述があることから区分1(呼吸器、腎臓)とした。

<p>特定標的臓器毒性（反復ばく露）</p>	<p>EHC (1998)、DFGOT vol.22 (2006) にはヒトでの銅の反復経口ばく露により、消化器症状 (吐気、嘔吐、腹痛等) 及び肝障害 (肝機能不全、肝硬変) が生じたとの報告がある。消化器症状については吐気、嘔吐、腹痛等であることから標的臓器の分類を支持しない。また、肝障害については1例のみの症例報告であり、一般化できないと判断した。以上より、分類できないとした。</p>	<p>標的臓器は造血系、神経系、腎臓及び心血管系であるとの記述 (DFGOT, vol.17(2002))、ヒトばく露例でヘム合成阻害、腎症、脳疾患が認められるとの記述 (EHC3(1977))(ACGIH (7th, 2001))(PATTY (5th, 2001))(IARC MONOGRAPHS SUPPLEMENT 7 (1987))、ヒトばく露例で末梢神経及び中枢神経機能に影響があるとの記述 (EHC3(1977))(ACGIH (7th, 2001))(PATTY (5th, 2001))、ヒトばく露例で高血圧など心血管系に影響があるとの記述 (EHC3(1977))(ACGIH (7th, 2001))、</p> <p>ヒトばく露例で免疫抑制作用がみられるとの記述(PATTY (5th, 2001))から、標的臓器は造血系、腎臓、中枢神経系、末梢神経系、心血管系及び免疫系と考えられ、いずれも区分1とした。</p> <p>EHCに甲状腺又は副腎機能低下の症例報告があるとの記述があるが、いずれも1970年以前の症例報告で、その後は同様の報告がなく、DFGOTには甲状腺に影響がないとの記述もあることから(DFGOT, vol.17(2002))、甲状腺と副腎が標的臓器とは考えられなかった。長期又は反復ばく露による、造血系、腎臓、中枢神経系、末梢神経系、心血管系及び免疫系の障害 (区分1)</p>	<p>「最も一般的な含マンガン無機物は二酸化マンガン、炭酸マンガン、珪酸マンガン、三酸化マンガンである。通常、過剰のマンガン化合物の14日間もしくはそれ以下(短期間)又は1年間に亘る(中期間)ばく露は呼吸器及び神経系に影響を及ぼし、他の臓器には影響を及ぼさないとされている」(CICAD 12 (1999))(CICAD 63 (2004)) との記載があることから、標的臓器は呼吸器、神経系と考えられる。以上より、分類は、区分1(呼吸器、神経系)とした。長期又は反復ばく露による呼吸器、神経系の障害</p>	<p>厚生労働省報告では、職業的にニッケル酸化物や金属ニッケルの0.04mg/m³以上の濃度にばく露している労働者は、呼吸器疾患で死亡する確率が高いとされ、また、ニッケル精錬とニッケルメッキ作業者に鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔穿孔、鼻粘膜異形成の報告がある (厚生労働省報告：ニッケルおよびその化合物有害性評価書(2009))。これにより区分1 (呼吸器)とした。ラットを用いた13週間の吸入ばく露試験(OECD TG 413)のガイダンスの区分1に相当する1mg/m³(0.001mg/L)以上の用量において、雌で肺胞タンパク症、肺肉芽腫性炎症が見られ、雄で肺単核細胞湿潤が見られた(NITE初期リスク評価書 ver. 1.0, No. 69 (2008))。また、ラットの21ヶ月間の吸入ばく露試験においても、ガイダンスの区分1に相当する15mg/m³(0.015mg/L)の用量で胸膜炎、肺炎、うっ血及び水腫が見られ (CaPSAR (1994))、さらにウサギを用いた6ヶ月間の吸入ばく露試験においても1mg/m³(0.001mg/L)で肺炎をおこす。なお、EU分類においてはT; R48/23に区分されている。</p>
<p>誤えん有害性</p>	<p>データ不足のため分類できない。</p>	<p>データなし</p>	<p>データなし</p>	<p>データなし</p>

<p>1 2. 環境影響情報</p>					
		<p>Cu</p>	<p>Pb</p>	<p>Mn</p>	<p>Ni</p>
<p>生態毒性</p>	<p>水生環境有害性 (短期/急性)</p>	<p>データ不足のため分類できない。</p>	<p>情報なし</p>	<p>データ不足のため分類できない。</p>	<p>データ不足のため分類できない。</p>
	<p>水生環境有害性 (長期/慢性)</p>	<p>L(E)C50 ≦ 100mg/Lデータが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明であるため区分4とした。</p>	<p>情報なし</p>	<p>L(E)C50 ≦ 100mg/Lデータが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明であるため、区分4とした。長期的影響により水生生物に有害のおそれ。</p>	<p>L(E)C50 ≦ 100mg/Lデータが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明であるため、区分4とした。</p>
<p>残留性・分解性</p>					
<p>生態蓄積性</p>					
<p>土壌中の移動性</p>					
<p>オゾン層への有害性</p>		<p>当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。</p>			

13. 廃棄上の注意					
		Cu	Pb	Mn	Ni
残余廃棄物		廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
汚染容器及び包装		容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意					
		Cu	Pb	Mn	Ni
国際規制	国連番号	該当しない		3208	3089
	品名（国連輸送名）			METALLIC SUBSTANCE, WATER-REACTIVE, N.O.S.	METAL POWDER, FLAMMABLE, N.O.S.
	国連分類（輸送における危険有害性クラス）			4.3	4.1
	副次危険				
	容器等級			I - III	II, III
	海洋汚染物質	該当しない		Not applicable	not applicable
	MARPOL73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み	該当しない			
その他の安全対策					
国内規制	海上規制情報	該当しない	非危険物	船舶安全法の規定に従う。（粉末の場合に限る）	船舶安全法の規定に従う。
	航空規制情報	該当しない	非危険物	航空法の規定に従う。（粉末の場合に限る）	
	陸上規制情報	該当しない	非該当	規制なし	該当しない
特別な安全上の対策		食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。	移送時にイエローカードの保持が必要。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
その他（一般的）注意					
緊急時応急措置指針番号		該当しない			

15. 適用法令				
	Cu	Pb	Mn	Ni
労働安全衛生法	<p>名称等を表示すべき危険有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9)</p> <p>名称等を通知すべき危険有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)</p> <p>リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 (法第57条の3)</p>	<p>名称等を表示すべき危険有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9)</p> <p>名称等を通知すべき危険有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)</p> <p>リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 (法第57条の3)</p> <p>鉛 (施行令別表第4・鉛中毒予防規則第1条第1号)</p>	<p>名称等を表示すべき危険有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9)</p> <p>名称等を通知すべき危険有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)</p> <p>リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 (法第57条の3)</p> <p>特定化学物質第2類物質、管理第2類物質</p> <p>(特定化学物質障害予防規則第2条第1項第2, 5号)</p>	<p>名称等を表示すべき危険有害物 (法第57条、施行令第18条別表第9)</p> <p>名称等を通知すべき危険有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)</p> <p>リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 (法第57条の3)</p>
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)		第1種指定化学物質 (法第2条第2項、施行令第1条別表第1)	第1種指定化学物質 (法第2条第2項、施行令第1条別表第1)	第1種指定化学物質 (法第2条第2項、施行令第1条別表第1) (政令番号: 1-308)
毒物及び劇物取締法				
労働基準法		疾病化学物質 (法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号)		がん原性化学物質 (法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第7号)
化審法				
消防法				
大気汚染防止法		有害物質 (施行令第1条)		
水質汚濁防止法		有害物質 (施行令第2条、排水基準を定める省令第1条)		
水道法				
下水道法				
海洋汚染防止法				
廃棄物の処理及び清掃に関する法律				
道路法				
土壌汚染対策法		特定有害物質 (法第2条第1項、施行令第1条)		
船舶安全法			可燃性物質類・可燃性物質 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1) (粉末の場合に限る)	可燃性物質類・自然発火性物質 (危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法			可燃性物質類・可燃性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1) (粉末の場合に限る)	可燃性物質類・自然発火性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法				

16. 参考文献 適用法令

安全データシート

(出典：厚生労働省 職場のあんぜんサイト)

	銅	作成日 2002年03月12日	改訂日 2014年03月31日
	鉛	作成日 2003年05月06日	改定日 2005年12月06日
	マンガン	作成日 2003年05月06日	改定日 2006年10月31日
	ニッケル	作成日 2009年03月30日	改訂日 2010年03月31日

GHS分類結果

(出典：NITE 化学物質総合情報提供システム)

	銅	平成25年度 (2013年度)	政府向けGHS分類ガイダンス (H25.7版)
	鉛	平成18年度 (2006年度)	GHS分類マニュアル (H18.2.10版)
	マンガン	平成18年度 (2006年度)	GHS分類マニュアル (H18.2.10版)
	ニッケル	平成26年度 (2014年度)	政府向けGHS分類ガイダンス (平成25年度改訂版)